

中心市街地拠点施設の一新で 若者集客に成功



取組の背景

これまでどおりでは 若者集客に苦心

同商店街では理事長を中心に、研修視察や商店街のイベント等に力を入れており、商店街での新規出店も見られる。しかし、利用者を見ると、若者は郊外の大規模店に買い物に行く傾向があり、利用者の高齢化と減少が課題であった。そこで、同商店街にある拠点施設を橋渡しに、既存の店主と新規出店した若者が手を取り合い、若者から高齢者までの幅広い世代が商店街で買い回りたくなり、集まりたくなる仕掛けの構築が必要と考え、同施設のリニューアルに乗り出した。

取組の内容

スタッフ、コンセプトを一新して 拠点施設をイノベーション

まず、拠点施設を一新するにあたり、新たな活動推進を担える人材として、燕三条地域のものづくり企業に勤めていた若者数名を新たなスタッフとして採用した。次に関係者150名以上へのヒアリング調査を実施し、調査結果から新たな拠点施設のコンセプトとして、①「なんとなく来てしまう、古きよき“原風景”が見つかる街」、②レトロな再発見を感じさせる街並みを活かし「まちなかに様々な楽しいモノ・コトを増やすこと」、③若者の人に認められたい欲求や自己表現できる環境が叶えられる「若者の自己実現」を抽出した。さらにスタッフの知見を活かして、拠点施設の見せ方のリノベーションや、主な来館目的である飲食ニーズを満たすような施設を再構築した。

新たな拠点施設「TREE」は、若者が興味を持つ構成にした。具体的には、入口はスタッフが待つカウンターで商店街の和菓子屋さんのコーヒーやケーキが味わえ、Wi-Fiやコンセントを完備したコワーキングスペースとして活用できるカフェとした。奥の和室は、古民家ならではの空間を、会議や勉強、読書スペースとして利用できる。さらに奥のレンガ壁で作られたスペースは燕三条のアウトドアをイメージしたレストランに設え、ラ

ンチ時に地元店主こだわりの素材を使ったオリジナルハンバーガーが食べられる。また、夜はキャンプ料理やアルコールも楽しめ、地域の若者が集まる環境を整備した。



古民家を活用した中心市街地拠点施設「TREE」

取組の成果

若者が集まる活気のある 商店街へ変身

その結果スタッフの活動に興味を示し、写真を趣味とする若者を中心とした「まちなか撮影会」(不定期)の開催を皮切りに、写真展や着物でまち歩き、空き店舗を活用したDJイベント等の若者中心のイベントが開催されている。商店街の店主や近隣住民からは「商店街に若者が来るようになって良くなった」という声が増え、取組を応援する人々の輪が広がっている。また、既存商店とのコラボレーション商品の開発が実現し、この活動がメディアに評価され、協力した店主もやりがいを感じたり、自社の強みの再認識につながっている。

また、2010年度から三条市が力を入れてきた商店街での歩行者天国イベント「三条マルシェ」を積極的に活用し、TREEを通じて集まった若者に自己実現の機会を提供するとともに、商店街への出店を勧めるなど、新規出店増加につなげ商店街の活性化に貢献してい

る。更に商店街に新たに加わった若者の活動が、既存の店、既存のイベント、既存の街並みをつなげ、商店街全体での新たな魅力を発信し、さらなる商店街の活性化に結びつく連鎖を呼んでいる。

商店街の集客状況を見ると、歩行者通行量がTREEオープン前年(2016年度)の調査では1日当たり310人であったのに対し、2017年度は476人と増加し、商店街の売上高も増加している。また、コラボ商品開発では、商店街内の果実店のフルーツを使用したフルーツカクテル、お茶屋さんの抹茶を使用した抹茶ジェラート、市内の養鶏場の卵を使用したオリジナルプリン等、多くの商品を開発した。商品開発だけでなく、地元のアパレル店とコラボしたカバンのデザインワークショップやヨガのワークショップ、地元の若手庭師による多肉植物寄せ植えワークショップ等も実施している。また、中心市街地外の企業とも連携しラフティングツアーの企画等も行っており、中心市街地にとどまらない活動を展開し、中心市街地と郊外との相互集客という効果も出ている。



「まちなか撮影会」が郊外でも展開

実施体制

協同組合一ノ木戸商店街としての組織力に加え、2017年度から拠点施設の運営を委託されている燕三条のものづくり企業と商店街にある老舗料亭が事業提携する「まちづくり事業部」が深く関わっている。商店街各店間の情報共有や経理は、商店街専属の事務員が担当しているが、商店街の魅力を伝える情報発信はTREEのスタッフが積極的に行なっている。

キーパーソンからのコメント

地方だからこそできる、やってみたい!をカタチに

一ノ木戸商店街には、「少子高齢化」、「シャッター商店街」、「空き家問題」、「若者の地元離れ」の問題があります。そんな中、僕は地方に残り、挑戦を続けている。若者が少ない街だから、より目立つ事ができ「自己実現」がしやすいからです。東京だったらたくさんのライバルの中で戦うことになってますが、地方ではみんなが協力してくれてすぐに成功体験を味わえます。

僕はこの商店街を通じて「地方は自分のやりたいことに夢中になれる場所」であることを発信しています。自分の可能性を試してみたい、街に影響を及ぼすくらいの事をしてみたい、という方には是非一度TREEを訪ねてほしいと思います。やってみたい!をカタチにする方法を一緒に考えましょう。



TREEマネージャー
中川 裕稀

商店街の概要

一ノ木戸商店街はJR東三条駅から約1kmの場所に立地する延長約500mの商店街である。市の中心市街地にあり、かつ、周辺にある3つの商店街、東側の東三条商店街と西側の昭栄通り商店街及び中央商店街をつなぐ場所にある。

古い町並みとドイツ村構想の象徴にもなっているハーメルンの館といった街並みが特徴であるが、事務所に隣接する歴史的建造物が空き店舗であった。ここを、国や市の補助により地域住民の交流スペースや喫茶コーナー等誰もが気軽に使える活動拠点として整備し、中心市街地拠点施設として運営してきた。この施設は、2017年4月に「TREE」としてリニューアルオープンしてからは、若者の来街者が増加した。

- 所在地 新潟県三条市仲之町
- 人口 約10万人(三条市)
- 電話／ 0256-33-2065
- FAX／ 0256-33-2065

- URL <http://tree-sanjo.com/>
(中心市街地拠点施設TREE)
- 会員数 22名
- 店舗数 22店舗(小売店18店、飲食業1店、サービス業3店)

- 商店街の類型 生活支援型
- 主な客層 学生・若者、高齢者／60歳代、70歳代以上